

# 乳幼児期からはじめる性教育

～こころとからだの主人公になるために～

日時：令和3年11月20日(土)

講師：菊池 準子 さん

(一般社団法人“人間と性”教育研究協議会四国ブロック幹事)

昨年度に引き続き、「性教育」に関する講座を行いました。

昨年度の講座よりもテーマの対象年齢を低く設定したため、乳幼児期のお子さんを待つ20代・30代の親御さんを中心に幅広い年代の方にご参加いただきました。また、0歳から4歳までのお子さんも共に参加され、講師と直接言葉を交わす機会ともなりました。講義はグループワーク形式で行われ、男の子も女の子も生まれる前は同じだったことや性器の役割・扱いなどを、小さい子にもわかりやすいようスライドを使用し説明しました。

人間の自立の中で最も難しいものが性的な自立であり、性的な自立には他人への信頼と自分に対する「好き・大切」という気持ちが必要不可欠です。親が子に対してできる性教育として、「子どもを大切にしていることを伝えること」、「イヤイヤ期でも子ども自身が何をしたいのか意思をきちんと聞いてあげること」、「男女の刷り込みをしないこと」等があるという講師の言葉が印象に残っています。



## ●講師からのメッセージ●



- ★性教育の下地の一つである自分も他人も大切だという考えは、自分自身が大切にされた経験が無ければ生まれなため、子どもの変化に気づき見守っていることを子ども自身に伝えてあげてほしい。
- ★子どもにできないことが多いのは経験がないためであり、経験を積むことでできることは増えていくため、子どもがやりたかったことはさせてあげてほしい。
- ★子どもは小さいが一人の人間であり、嫌なことを嫌という意味を尊重してあげてほしい。
- ★何事も不思議に思ったことを尋ねることは当たり前であるため、それが性のことであっても科学的に正確な情報を与えてあげてほしい。

## ●性教育に取り組む上でのキーワード●

肯定的  
当たり前  
自然にある

発達の  
年齢や学びに伴い  
成長し変化する

性器もみんなのからだにある  
からだの変化も性的欲求も

成長の証

学びで性のとらえ方が変わる



グループワークを通して子育てにおける性教育の悩みや解決法を共有しました。

## ●当日の様子●

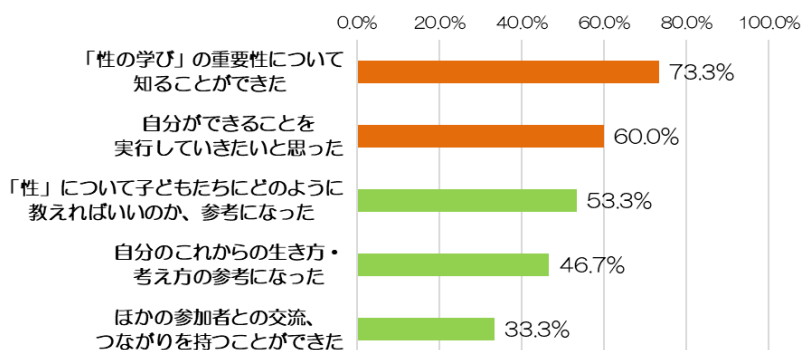


キッズスペースを設置しました。

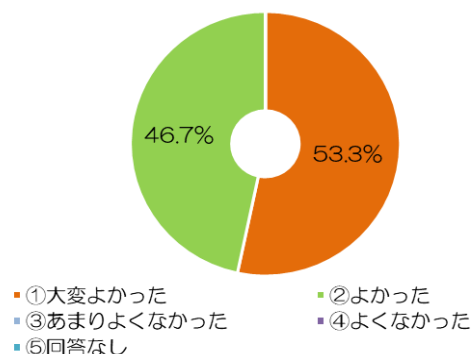


## ●アンケートより●

◆受講してあてはまるものを選択してください。(複数回答可)



◆参加していかがでしたか？



## 参加者の声

小さい子には難しい内容かなと勝手に思い込んでいたので、講義を聞いて考えが改まりました。(年代不明/男性)

性のことを知ることは、自分を大切にすることだと思いました。(20代/女性)

小さいころから子に性について学ばせ、親自身もその内容を知ることが家庭にいい影響を与えたいと思いました。(30代/男性)

将来、保育に携わりたいと考えているため、自分なりにできそうなことを考えていこうと思いました。(20代/女性)

心身のことだけでなく、食や人権尊重に関することともつなげてお話されたところは学校教育では是非広めたいです。(50代/女性)

孫守り時に性について質問され、ドキマギしました。これからはちゃんと話すことができます。(60代/女性)

性教育には幼児～小学校～中学校と連続した学びが必要だと思いました。日常に性に関する絵本を置くことは性教育において良いものかもしれないと思いました。(60代/女性)

子どもたちに性について話をするためのヒントを多く学ぶことができました。(70代以上/女性)